

開館 50 周年を迎える山種美術館において新たな公募展 『Seed 山種美術館日本画アワード 2016』 いよいよ始動！

◆ 『Seed 山種美術館日本画アワード 2016』 とは

山種美術館は 2016 年に創立 50 周年を迎えます。これを機に、これからの時代にふさわしい日本画の新たな創造に努める優秀な画家の発掘と育成を目指し、公募形式による美術館賞『Seed 山種美術館 日本画アワード』（募集期間：2016 年 1 月 3 日～2 月 22 日）を新設し、実施いたします。本アワードの入選作品は、2016 年 5 月より開催される『Seed 山種美術館 日本画アワード 2016』展で発表・展示される予定です。



© Koike Norio 2009

◆ 『Seed 山種美術館日本画アワード 2016』 ロゴマークについて



本賞および公募展の名称に使用した「種」を意味する「Seed(シード)」には、創立者・山崎種二の「種」、山種美術館の「種」、そして日本画の未来につながる「種」を発掘し、育てるという意味を込めました。

しなやかで愛らしい芽と種のデザインは仲快晴氏(株式会社アドアーツ)によるものです。仲氏は「しばしば日本画に対して抱かれる、敷居が高い、堅苦しいというイメージを払拭し、しかし、洗練され、ロゴとしての普遍性を持ち合わせたデザインを心がけた」と語っています。

◆ 山種美術館と『山種美術館賞展 今日の日本画』（1971～1997年、全14回）について

当館は、創立者・山崎種二(山種証券：現 SMBC フレンド証券 創業者)の「美術を通じて社会、特に文化のために貢献したい」という理念のもと、1966(昭和 41)年に、全国初の日本画専門の美術館として開館いたしました。以来、今日にいたるまで約半世紀にわたり、近代・現代日本画を中心とした収集・研究・公開・普及につとめてまいりました。

日本画の奨励・普及活動の一環として 1971 年に『山種美術館賞』を創設し、その後 1997(平成 9)年までの隔年 14 回にわたり、『山種美術館賞展 今日の日本画』を開催してきました。この『山種美術館賞』は、推薦委員により推薦された画家が新作もしくは未発表作品を出品、詮衡委員による審査を経て、大賞 1 名、優秀賞 2 名が選定される形式で実施され、当時は新人の登竜門として広く注目を集め、高い評価を得ていました。



旧山種美術館エントランス(東京・日本橋兜町)

◆ 館長・山崎妙子からのメッセージ



当館は、日本独特の自然や風土の中で、長いときをかけて磨かれてきた日本画の魅力を、年齢、性別、国籍を問わず、一人でも多くの方にお伝えしていきたいと考えています。公募展『Seed 山種美術館 日本画アワード』の新設と 2016 年 5 月に開催予定の第 1 回展は、私どもの今後の活動のうちでも重要なものの一つに位置付けられます。このような活動をとおして、当館も日本画を未来に引き継いでいくことができるよう貢献していきたいと存じます。近年、人々の心を豊かにする文化や芸術の重要性が見直されるとともに、その一端を担う美術館の果たすべき役割があらためて問われています。日本画と日本文化の素晴らしさを伝え、人々に感動や発見、喜びや安らぎをもたらすことのできる美術館を今後も変わらず目指してまいります。これからの日本画界を牽引するであろう若手アーティストの皆様からの応募を心からお待ちしております。